

第2回 大郷町地域公共交通協議会

資料2

住民生活の足を支える

# 大郷町 住民バス 乗降調査結果 報告書

# 調査の目的と概要

住民バスの利用実態を「乗降地点」「時間帯」「利用者層」の観点から今後の効率的な運行計画の基礎資料とすることを目的に調査を実施

1. 調査対象 住民バス 全7ダイヤ

2. 実施日 令和7年12月19日（金） 令和8年1月15日（木）

3. 調査項目 バス停別の乗車・降車人数、年代別利用者数

## 利用者の年齢層分布



利用者数合計

令和7年12月19日 (金)

延べ 190名

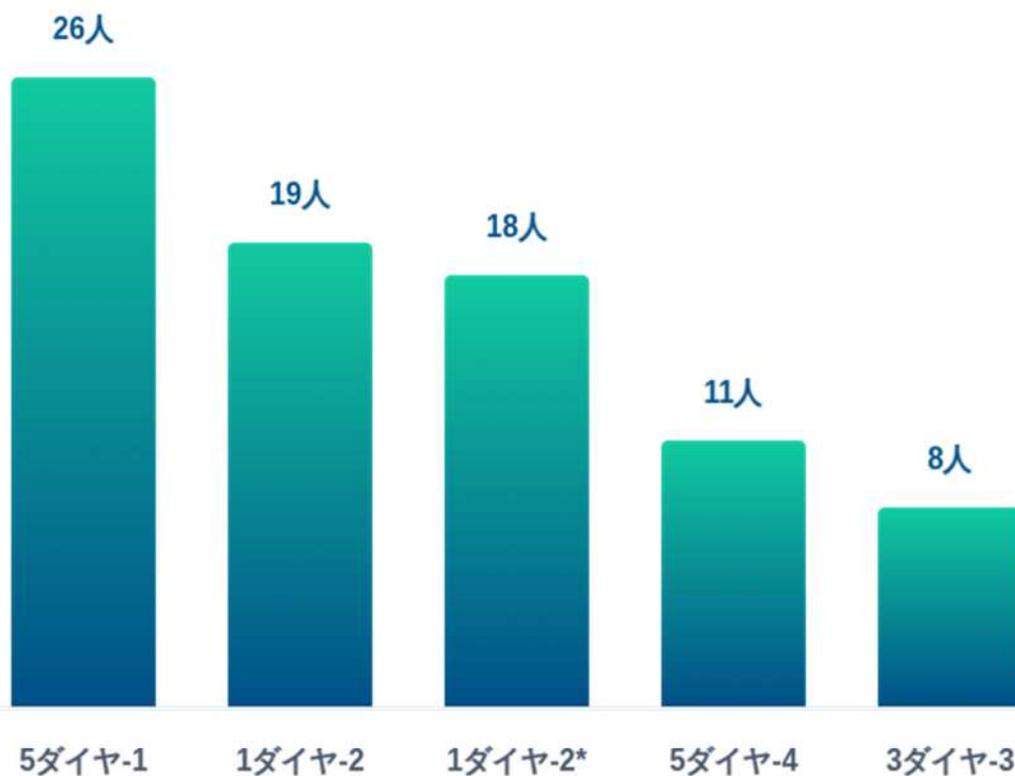
令和8年1月15日 (木)

延べ 195名

- 10代 (通学) : 60%
- 70代以上 (通院・買物) : 25%
- その他 (通勤等) : 15%

朝夕の学生利用が圧倒的に多く、日中は高齢者の買い物や通院のための利用が見られる。

## 10代利用者の多い主要ダイヤ



5ダイヤ（塩釜方面）の朝1便目が最も混雑しており、次いで1ダイヤ（大和方面）の朝1便目が混雑しており、いずれも通学の生命線となっている。

## 通学拠点への集中的な移動

**主要降車停留所**：高城町、黒川高校、利府高校、塩釜高校入口

**ピーク時間**：午前6時30分～7時30分に集中

**特徴**：特定の停留所で一度に10名以上の降車が見られ、典型的な通学パターンを示している

## 日中の利用と主要拠点の役割

日中の乗客数は1～5名程度の便が常態化している。



### 物産館

買物利用の最大拠点。日中の全ダイヤで安定した乗降がある中核施設。



### 医療機関

黒川病院、大郷町歯科医院前など。午前便で高齢者の降車が目立つ。



### 町役場

行政サービスへのアクセス。日中の生活路線としての機能を担う。

## 時間帯別利用者数推移



典型的なM字型推移。朝夕の通学ピークと、10時から14時の買物・通院ピークが顕著である。

## 調査結果から

- ✔ **特定層への偏り**：通学利用に特化しているため、学校の長期休暇期間の稼働率が低下する構造にある。
- ✔ **日中時間帯の非効率性**：大型の車両を走らせている場合、日中の少人数の利用に対してコストパフォーマンスが悪化している。
- ✔ **バス停の格差**：一度の乗降が発生していないバス停が複数存在し、ルート of 冗長化を招いている可能性がある。